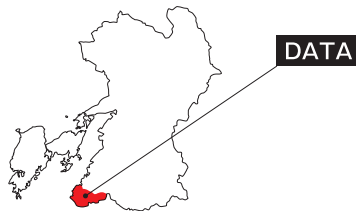




目指すはコンテンツを活かした街づくり



DATA

熊本県の南端、鹿児島県との県境に位置し、西は八代海（不知火海）に面しています。面積は162.89㎢で、東西に約22km、南北に約14km、人口は25,893人（平成27年12月末時点）。不知火海を望むリアス式海岸の美しい湯の児海岸や歴史情緒溢れる温泉街、環境をテーマとした施設など見どころはいっぱいです。また、温暖な気候のおかげで、特産柑橘「デコボン」をはじめとした山海の恵みも豊富。多彩な味覚に出会えます。

観光に関するお問い合わせ ☎0966-63-2079（みなまた観光物産協会）

漫画家・江口寿史氏とコラボレーション

水俣市は、80年代に大ブレイクしたギャグ漫画『ストップひばりくん』などで知られる漫画家・江口寿史氏の出身地です。イラストレーターでもあり、雑誌、広告、小説本の装丁、CDジャケット、アニメ映画のキャラクターデザイン等、作品は多岐に渡ります。近年は水俣市観光ポスターの原画を制作。繊細なタッチで描かれた女性と風景のイラストは、地域活性化に大きく貢献しています。



短編映画『恋路物語 -each little thing-』を製作

かねてより積極的にコンテンツ産業を活用した街づくりに取り組んで来た水俣市。2006年には短編映画『恋路物語 -each little thing-』を制作しました。ストーリーは全国から募集し、345作品の応募の中から選出。グランプリに選ばれた「ばあちゃんの恋」（関戸幸子著）を原作に、水俣の自然を舞台とした恋物語が描かれています。主人公・沢崎ミキには谷村美月さん、その友だち役は松澤傑さん、父役は渡辺いつけいさん、祖母役は草村礼子さん、そのほかオーディションで選ばれた水俣市内の中高生たち約500人が出演しています。



▼観光スポット



エコパーク水俣親水公園

恋路島を目の前にした場所に位置する護岸遊歩道で、夕陽の絶景スポット。様々な折りを込めて彫られた石仏が海を見つめています。恋人の聖地もあります。

<http://www.city.minamata.lg.jp/149.html>



エコパーク水俣竹林園

160種類の竹笹類で構成された和風庭園。水俣湾埋め立てで環境は変わりましたが、竹の生命力をもって「新たな環境を開拓して欲しい」との願いが込められています。

<http://www.city.minamata.lg.jp/149.html>



湯の鶴温泉

湯治場として有名な山間部の温泉郷。700年前に平家の落人が、傷ついた鶴が湯あみするのを見て湯の存在を知り、「湯の鶴温泉」と名付けたとされています。

<http://www.city.minamata.lg.jp/377.html>



エコパーク水俣バラ園

エコパーク水俣の入口に位置するローズガーデン。13,000㎡のバラ園では、350品種のオールドローズコレクションをはじめ750種6,500本のバラに出会えます。

<http://www.city.minamata.lg.jp/149.html>



湯の児温泉

4世紀頃に第12代景行天皇が行幸された際、お湯が湧き出ると見つけられ、湯温が低く「湯の親ではなく、子だ」とされたことから名付けられたといわれる温泉郷です。

<http://www.city.minamata.lg.jp/376.html>



湯の児スペイン村福田農場

高台に位置しており、園内どこからでも見渡せる不知火海の眺めは最高！スペイン料理や特産の柑橘を使ったグルメ、フラメンコショーなども楽しめます。

<http://www.fukuda-farm.co.jp/>

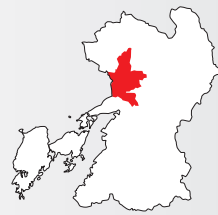


見どころ、話題 いっぱいの県都

DATA

熊本県の西北部に位置する熊本市。面積は390.32㎢で、人口は738,371人（平成26年4月1日時点）。日本三大名城に数えられる『熊本城』をはじめ、夏目漱石や宮本武蔵といった歴史上の偉人たちがゆかりの地など観光スポットも多く、国内外からのたくさんの観光客で賑わいます。サービス産業が中心の都市で、そのほかIC産業の集積、全国でも高い生産性を誇る都市型農業、水産業など各種産業も展開されています。

観光に関するお問い合わせ ☎096-328-2072
（熊本市観光文化交流局シティプロモーション課）



▼観光スポット



熊本城

トリップアドバイザー「行ってよかった！日本の城ランキング」で2013年から2015年まで3年連続1位に輝いた名城。ボランティアガイドによるお城案内も大人気です。

<http://www.manyou-kumamoto.jp/castle/>

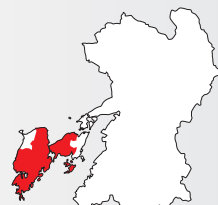


海の恵み あふれる美しい島

DATA

熊本県南西部に位置し、周囲を3つの海（有明海、八代海、東シナ海）に囲まれた天草諸島の中で、天草上島の一部と天草下島、御所浦島などで構成されています。面積は683.32㎢、人口は85,525人（平成28年1月末時点）。産業は温暖な気候を生かした農業や、豊かな水産資源を生かした漁業を主として発展。雲仙天草国立公園に指定された自然環境や、キリシタンの歴史文化など多くの地域資源に恵まれ、年間約290万人の観光客が訪れます。

観光に関するお問い合わせ ☎0969-22-2243（天草宝島観光協会）



▼観光スポット



崎津集落

熊本県・長崎県・関係市町と共に平成30年の世界遺産登録を目指す天草の「崎津集落」。漁村集落にたたずむゴシック様式の協会内部は、国内でも少ない量数です。

<http://hp.amakusa-web.jp/a1075/MyHp/Pub/>



商業施設も 多彩な人気エリア

DATA

菊陽町は熊本市の北東部に位置し、東には阿蘇の連山が眺望できます。町域は東西11.8km、南北9.4km、面積37.46㎢、人口は40,583人（平成28年1月末時点）。特に発展著しいのは「光の森」地域で、大型ショッピングセンターをはじめ様々な商業施設が集まり、県内外から移り住む人も多く活気にあふれています。また、多様な農畜産物が生産されており、特に、国の産地指定を受けている「菊陽にんじん」は、その品質を評価され全国へと出荷されています。

観光に関するお問い合わせ ☎096-232-2165
（菊陽町商工振興課商工振興係）



▼観光スポット



馬場楠井出の鼻ぐり

熊本城を築城した肥後熊本藩主・加藤清正が造ったとされる井出（用水路）です。穴の形が牛の鼻輪を通す穴に似ているということが「鼻ぐり」名称の由来とされています。

<http://town.kikuyo.lg.jp/soshiki/19/babagusuidenohanaguri.html>



マンガ、自然、 温泉に出会える町

DATA

熊本県の南部、球磨盆地の東端に位置し、東は宮崎県児湯郡西米良村と九州山脈で接しています。町の中心部から熊本市までは118km、宮崎市までは120km、鹿児島市までは110kmで、3県都のほぼ中間地点です。面積は48.42㎢、人口は4,163人（平成27年12月末時点）。風光明媚な自然や野趣あふれる温泉、のどかな「くま川鉄道」、湯前町出身の政治漫画家である故・那須良輔氏の偉業を保存・展示した「湯前まんが美術館」などを目当てに、多くの観光客が訪れます。

観光に関するお問い合わせ ☎0966-43-4111（湯前町産業振興課）



▼観光スポット



ゆのまえ温泉湯樂里

湯前町の豊かな自然を一望できる露天風呂が人気の天然温泉施設。ホテルやコテージのほか、ゴーカートやバターゴルフ、レストランなどの施設もあり好評。

<http://www.y-yurari.co.jp/>

熊本を拠点に活躍するキーマンや、イベント、注目スポットなどをご紹介します。

key
person

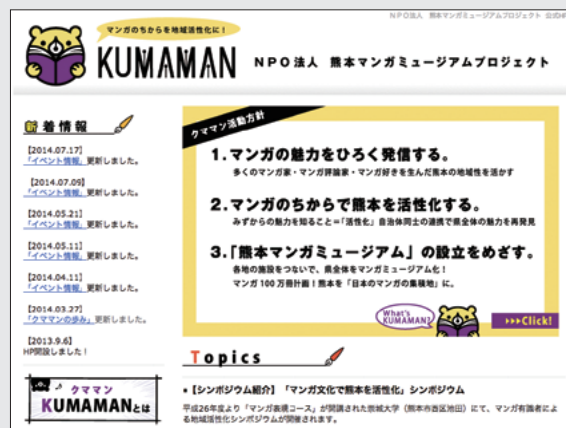
豊富な知識とコレクションを誇る NPO法人『熊本マンガミュージアムプロジェクト(クママン)』 代表・橋本博さん

「熊本マンガミュージアムの建設」を目指す『クママン』代表の橋本さん。2015年に惜しまれつつ幕を閉じた絶版マンガ専門古書店『キララ文庫』（熊本市）の元店主であり、マンガ関連イベントの企画や施設運営のコンサルティングを行うなど、マンガを軸とした活動は多岐にわたります。さらに『月刊IKKI』（小学館）にて、芳崎せいむ作『金魚屋古書店』の巻末コラム『金魚屋古書店雑誌帳』も10年に渡って連載されていました。

マンガ研究・評論家でもある橋本さんは、熊本での活動だけでなく、明治大学の講座に登壇するなど全国規模で活動されています。また、40年に渡り収集した膨大なコレクションには絶版も多く、お宝がたくさん。マンガ史を振り返る貴重な資料としても注目を集めています。

NPO法人『熊本マンガミュージアムプロジェクト(クママン)』

<http://www.kuma-man.com/>



event

マンガ・アニメ・ポップカルチャーの祭典 くまフェス



熊本市中心街を会場に、2012年から年1回開催中のイベント『くまフェス』。マンガ・アニメ・ポップカルチャーの祭典で、コスプレパフォーマンスやゲスト声優、アニソンライブなどステージイベントも大盛況。台湾からのゲストパフォーマーも登場するなど、国内外から注目を集めており、毎年来場者は2万人を超えています。2016年も開催予定。詳しくは公式サイトをご覧ください。

くまフェス <http://kumafes.com/>

NPO

熊本をマンガの聖地に！ NPO法人『グランド12』

「熊本をマンガの聖地にしよう」というコンセプトで活動をしているNPO法人です。マンガという世界に通じる日本の文化を通して、熊本の街を元気にする企画を計画・実行しています。『くまフェス』の企画・主催も同団体です。

NPO法人『グランド12』 <http://www.grand12.com/>



spot

全国からファンが集う 『湯前まんが美術館(那須良輔記念館)』



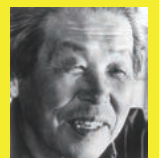
湯前まんが美術館(那須良輔記念館)

<http://yunomae-manga.com/>

湯前町出身の政治漫画家、故・那須良輔氏の偉業を保存・展示する施設として開館した美術館です。日本の優れた漫画文化を後世に継承していくため、那須良輔氏の作品を展示する常設展示室と書斎を再現したコーナー、企画展示室を備えています。また年に数回、特別展も開催されており、2015年度は『少年サンデー皆川亮二原画展』や『満田拓也の世界』などを開催。県内外から多くのファンが訪れました。さらに、恒例イベントとして『ゆのまえ漫画フェスタ』も開催中です。漫画家によるトークショーやステージイベントなどが行われ、毎回多くのファンで賑わいます。

那須 良輔 Ryosuke Nasu

1913年、湯前町下染田生まれ。昭和8年のデビュー以来、戦中戦後を通じて、日本漫画界の重鎮として活躍。政治に対する怒りをバネに、すぐれたデッサンで時の政治家の似顔絵を特徴たつぷりに描きながら、それぞれの時代の政治や社会現象を痛烈に風刺しました。また、釣りや自然を題材にした随筆も多く、広く文化人として知られています。



spot

来熊120年、没後100年、生誕150年 夏目漱石ゆかりの場所多数

文豪・夏目漱石。熊本とのゆかりは深く、1896年、第五高等学校（現在の熊本大学）の教師として来熊しました。4年3カ月の熊本滞在期間中に6回転居し、そのうち5番目に移り住んだのが写真の『夏目漱石内坪井旧居』。最長となる1年8カ月を暮らした家です。当時、新婚だった鏡子夫と暮らし、長女・筆子さんが誕生した夏目家にとっての思い出の家。筆子さんの産湯に使った井戸や、五高の教え子で後に物理学者で優れた随筆家となった寺田寅彦ゆかりの馬丁小屋（ばていごや）などが現在も残っています。記念館として公開されている内部には、貴重な漱石直筆の原稿やレプリカ原稿、五高時代の写真などが展示されています。その他、草枕の道、峠の茶屋などゆかりの地が熊本市には数多くあります。なお、平成28・29年に漱石は来熊120年、没後100年、生誕150年を迎えることもあり、熊本市では様々なイベントや企画が行われる予定です。



夏目漱石内坪井旧居

<http://www.manyou-kumamoto.jp/contents.cfm?type=A&id=79>

MCC pressでは熊本の様々な情報をお伝えしていきます。お楽しみに！